

11月文楽公演

平成30年

11月3日(土・祝) - 25日(日)

※14日(水)は休演

第1部 午前11時開演

Ashiya Doman Uchi Kagami

あしやどうまんおうちかがみ

蘆屋道満大内鑑

葛の葉子別れの段
信田森二人奴の段

Katsuragawa Renri no Shigarami

かつらがわれんりのしがらみ

桂川連理柵

六角堂の段
帯屋の段
道行臈の桂川

第2部 午後4時開演

Hibariyama Himesure no Matsu

ひばりやまひめすてのまつ

鷗山姫捨松

中将姫雪責の段

Onna Koroshi Abura no Jigoku

近松門左衛門作
おんなころしあぶらのじごくへ

女殺油地獄

徳庵堤の段
河内屋内の段
豊島屋油店の段



◆予約開始=10月3日(水) 午前10時~

【電話】国立劇場チケットセンター(午前10時~午後6時)

0570(07)9900/03(3230)3000(一部IP電話等)

◆窓口販売開始=10月4日(木) チケット売場(午前10時~午後6時)

◆ご観劇料[各部・税込](学生・障害者の方は割引がございます(1等のみ))

[1等] 6,000円 [2等] 2,400円

※幕見席もございます。詳細は国立文楽劇場ホームページ又は
国立文楽劇場チケット売場(06-6212-5845)まで。

※車椅子用スペースがございます。ご予約時にお問い合わせください。

国立劇場チケットセンター

字幕表示がございます

国立文楽劇場 (大阪)
National Bunraku Theatre, Osaka

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
06(6212)2531(代表) <https://www.ntj.jac.go.jp/>

English <https://www.ntj.jac.go.jp/english.html>

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

beyond
2020

11月文楽公演 平成30年 11/3(土・祝)~25(日)

※14日(水)は休演
字幕表示がございます

第一部

午前11時開演(午後3時15分終演予定)

蘆屋道満大内鑑

葛の葉子別れの段/信田森二人奴の段



平安時代の陰陽師・安倍晴明は、和泉国信田森の白狐と安倍保名との間に誕生したと言う伝説があり、この作品はこの伝説に取材した時代物です。享保十九年(一七三四)に初演された際に「信田森二人奴の段」で、それまで一人遣いであった人形を初めて三人で遣う技法が誕生したといわれる記念すべき作品です。阿倍野の里に隠れ住む安倍保名は、葛の葉との間に安倍童子をもうけて幸せに暮らしていました。そこへ葛の葉姫を連れて来た信田庄司夫婦が現れます。真の葛の葉姫の来訪に童子の母は、保名に助けられた白狐であると自らの正体を明かし、童子の将来を託して姿を消すのでした。

都を指す保名一行の前に悪右衛門の一派が立ちふさがります。保名の奴与勘平の加勢に瓜二つの奴野干平が現れますが、この野干平こそ狐葛の葉の同族の化身だったのでした。



桂川連理柵

六角堂の段/帯屋の段/道行麩の桂川

宝暦十一年(一七六一)四月に桂川の川岸で男性と少女の遺体が発見された事件をもとに脚色された世話物です。当時としては分別がある年齢の男性と十四歳の少女の恋を中心に、貞節な女房、家内を自由にする後妻親子、滑稽な隣家の丁稚とのやりとりなど、見どころ、聞きどころの多い演目です。帯屋の主人長右衛門は隣の信濃屋の十四歳の娘お半と関係を持ってしまいました。長右衛門の女房お絹は、信濃屋の丁稚長吉を、お半の情夫は自分



であるとなりのように仕向けます。帯屋の乗っ取りを企む長右衛門の継母のおとせと義弟の儀兵衛は、金紛失の罪を着せ、お半のことも暴露して長右衛門を陥れようとしています。長右衛門は父繁斎の理解とお絹の機転でその場を免れますが、お半の残っていた書置を見て心中を決意し、お半を追って桂川へ向かうのでした。

第二部

午後4時開演(午後8時5分終演予定)

鷗山姫拾松

中将姫雪責の段

奈良・當麻寺の中将姫は、継母の殺意を逃れて鷗山に潜み、のちに曼茶羅を織って極楽往生を遂げたという「中将姫伝説」を脚色した作品です。この伝説上の人物を御位争いという大時代な時代浄瑠璃の枠組に収めて描き、継母から受けるいわれのない責め場がみどころです。右大臣豊成の後妻岩根御前は天皇を呪詛する長屋王子の乳母であったので、継子の中将姫が天皇からお預かりしている観音像が紛失した罪を姫にさせて座敷牢に閉じ込めていました。雪の降りしきる寒空に岩根御前は、一味の大式広嗣とともに姫を引きずり出し、折檻して自白を強要します。見かねた侍女の桐の谷と岩根方の浮舟が争ううちに姫は急所を打たれて息絶えてしまおうのでした。



女殺油地獄

徳庵堤の段/河内屋内の段/豊島屋油店の段

近松門左衛門の作で竹本座で享保六年(一七二二)七月初演されました。永らく上演が途絶えていましたが、明治期以降に歌舞伎などで舞台にかけられるようになり、文楽でも昭和三十七年(一九六二)四月道頓堀文楽座ついに復活し、今日有数の世話狂言として定着しました。現代にも通じる家族関係やふとしたすれ違いから生じる心情のねじれと、凄惨な殺し場とが織り交ざった名作です。



油商河内屋の次男与兵衛は、徳庵堤で起こした喧嘩に侍を巻き込み、手討ちにされそうになりました。大坂へ逃げ帰った与兵衛は、病床の妹を言いくるめ、実父の霊が憑いたこととして、養父に家督を譲るようを迫ります。番頭上がりの養父は先代主人の実子の与兵衛に遠慮していましたが、実母に手を上げるのに至り、与兵衛を勘当してしまいます。親の印を偽造して高利貸から金を借りた与兵衛。返済期限の前夜、同業の豊島屋に上がり込むと女房のお吉に借金を頼みます。お吉は親達が預けた金を渡しますが、与兵衛はそれでは足りぬとお吉を手を掛け、店の金を奪って逃げてゆくのでした。

※出演者などの変更の場合はご了承ください。

予約開始

10月3日(水) 午前10時~
(電話) 国立劇場チケットセンター [午前10時~午後6時]
0570(07)9900
03(3230)3000 [一部IP電話等]
(インターネット) <http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)
<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> (スマートフォン)

窓口販売開始

10月4日(木) チケット売場 午前10時~午後6時
※窓口販売用に別枠でのお取置きはございません。

ご観劇料(各部・税込)

[1等] 6,000円 [2等] 2,400円
(学生 [1等] 4,200円 [2等] 2,400円)

※障害者の方は2割引です(1等のみ)。
※車椅子用スペースがございます。ご予約時にお問い合わせください。
※幕見席もございます。詳細は国立文楽劇場ホームページ又は国立文楽劇場チケット売場(06-6212-5845)まで。

プレイガイド
10月3日(水) 午前10時より
チケットぴあ... 0570(02)9999 [Pコード 484-332]
<http://pia.jp/>
ローソンチケット 0570(000)407 [Lコード 54632]
e+(イープラス) <http://eplus.jp>
JR西日本(京阪神地区)の主な駅のみどりの窓口
※10月3日は午前11時からの取り扱いになります。



国立文楽劇場(大阪)

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
06(6212)2531(代表) <https://www.ntj.jac.go.jp/>

地下鉄・近鉄(日本橋)駅下車7号出口より東へ徒歩約1分
※駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

◎国立文楽劇場1階食堂「文楽茶寮」、2階お弁当売店は、平成30年5月末日をもって休業しております。今後の営業につきましては決定次第、ホームページ等でご案内いたします。